

2025 9/23

No.2243

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
—神奈川政経懇話会—



「田原ふるさと公園」（秦野市東田原）周辺の水田で28日まで、恒例のかかしまつりが開かれている。たわわに実る稲穂を前に、アニメ「ハイキュー!!」やゲームソフト「マリオカート」のキャラクターなど、個性豊かな作品が並んだ。



政経かながわ

2025 **9/23**
No.2243

contents

視点点描

「連携したい存在」目指し

3

講演録

横浜工場の今までとこれから

麒麟ビール常務執行役員横浜工場長

藤原 義寿

4

麒麟ビール横浜工場見学（報告）

7

特集

なぜ加害者が守られる社会なのか

渡邊渚さんが直面した

ネット誹謗中傷の`理不尽、

8

政治双眼鏡

自民政治の総決算

問われる国民政党の具体像

12

サヘル・ローズ×リアルワールド

あの日の自分を抱きしめたい

13

神奈川景気データファイル

14

事務局だより

◇2025年10月定例講演会

10月9日(木)午後1時30分～3時
メルヴェーユ(桜木町駅近く)

講師：万延元年遣米使節子孫の会
(横浜)理事 堀 早百合氏

演題：1860年の日米通貨交渉
～小栗上野介と万延元年
遣米使節団～

◇2025年11月定例講演会

11月19日(水)午後1時30分～3時
崎陽軒本店(横浜駅東口)

講師：ありあけ取締役会長
藤木 久三氏

演題：`なるほど！感動カンパ
ニー、への挑戦 ～逆境
を生き抜くプラス発想～

◇2025年12月定例講演会 (シンポジウム・会員交流会)

12月15日(月)午前11時～午後1時
30分

ロイヤルホールヨコハマ(横浜
市中区)

講師：共同通信社政治・経済・
外信部長など

演題：2026年の動向を読む

◇2026年1月定例講演会

1月15日(木)午後1時30分～午後3時
神奈川新聞社12階大会議室
(横浜市中区)

講師：文芸評論家 三宅香帆氏

演題：なぜ働いていると本が読
めなくなるのか

【お知らせ】会報「政経かながわ」
に会員企業の新商品の紹介、地域
貢献活動、人事などジャンルを問わ
ずさまざまな会員情報を掲載してい
ます。掲載の問い合わせなどは事
務局☎045 (226) 2121。

視点 点描



「連携したい存在」目指し

神奈川新聞社は本年度からスタートした3カ年中期経営計画で、編集・営業の両面で地域との接点をより増やす「神奈川特化」に取り組んでいます。

その一環として「地域共創本部」を発足。県内を5エリアに分け、地域の責任者である「統括」を配置しました。私は「県央・相模原」

の統括として7月に相模原支局に着任しました。県央・相模原の皆さま、どうぞよろしく願います。

担当するのは、東は大和市から西は秦野市まで10市町村。ひと言で「県央・相模原」といってもエリアは広大で、毎日がほぼ移動で終わっています。

利用する主な鉄道はＪＲ横浜線、小田急線、相鉄線。昼間に相模原支局と訪問先を行き来するのですが、どの路線にも大学生らしき若者が大勢乗っています。県央・相模原には大学も多く、相模原市内だけでも、青山学院大学、麻布大学、桜美林大学、北里大学、相模女子大学、女子美術大学と6校あります。

文部科学省の統計によると、2024年度の大学入学者数は約61万3千人。募集人員の約62万5千人を下回っています。少子化の影響を大きく受けているためです。大学は特色ある教育や学部強化、地元志願者の定着や確保の面からも地域連携を強化し、大学の存在意義を高める取り組みを行っています。

相模原支局があるＪＲ相模原駅の隣、矢部駅が最寄りの麻布大学は獣医学部がある大学です。文部

科学省の助成を受け、多様な能力を育む「『出る杭』を伸ばす教育プログラム」を実践し、5年間の成果を発表するシンポジウムを先日、開催しました。大学関係者は「学生一人一人の個性と挑戦を支えていきたい」と話していました。また高大連携にも取り組むなど地域との連携を深めており、「地元の方々に、もっと麻布大学を知っていただきたい」と意気込みを話していました。

このように大学も「特色づくり」や「地域連携」に力を入れていますが、神奈川新聞社も「神奈川特化」を特色にし、地域の皆さんが「連携」したい存在になりたいと思っています。「地域共創」の気持ちをもって、10市町村を歩いていきたいと思っています。

(神奈川新聞社地域共創本部
県央・相模原統括 秋山 理砂)